

# 教育に関する事務の点検・評価報告書

(令和2年度事業)

令和3年7月

大仙市教育委員会

## 目 次

1	点検・評価の趣旨	1
2	点検評価の実施方法	1
3	教育委員会の活動に関する事務	2
	(1) 教育委員会の会議の開催状況	2
	(2) 教育長・委員の活動状況	5
	(3) 教育長・委員の研修状況	5
4	総合教育会議の開催状況	6
5	点検・評価の対象事業	7

No.	分 野	事務・事業名	担当課等	ページ
1	学校教育	奨学資金貸付事業	教育総務課	7
2	学校教育	奨学金返還助成事業	教育総務課	8
3	学校教育	大仙グローバルジュニア育成事業	教育指導課	9
4	学校教育	学校生活支援事業	教育指導課	10
5	学校教育	花館小学校校舎増築事業	施設管理課	11
6	生涯学習	学校・家庭・地域連携総合推進事業	生涯学習課	12
7	生涯学習	おもしろ講座	神岡中央公民館	13
8	生涯学習	2020カッコイイ親父教室 IN オータム ～親子で防災キャンプ～	大綱交流館	14
9	芸術・文化	ドンパル講座	中仙公民館	15
10	芸術・文化	芸術文化振興事業「きょうわ祭」	協和公民館	16
11	生涯学習	なんがいの味・食育体験交流事業	南外公民館	17
12	生涯学習	暮らしの達人講座	仙北公民館	18
13	生涯学習	親子陶芸教室	太田公民館	19
14	生涯学習	子ども読書通帳事業	総合図書館	20
15	生涯学習	クリスマスのタベ	総合市民会館	21

6	学識経験者の総評	22
---	----------	----

## 1 点検・評価の趣旨

大仙市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、教育委員会が行う教育事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとしました。

## 2 点検・評価の実施方法

### (1) 点検・評価の対象とする事務

点検・評価の対象とする事務は、令和2年度の教育委員会の活動に関する事務のほか、大仙市総合計画、新しい時代の学校教育だいでせんビジョン、大仙市生涯学習推進計画に基づく同年度に実施した事業のうち、15事業を選定し、点検・評価を行いました。

### (2) 点検・評価の方法

点検・評価は、事務事業の点検・評価表により、担当課による自己評価を実施するとともに、有識者からの外部評価をいただきました。

### (3) 外部評価していただいた有識者

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、秋田県社会教育アドバイザー小笠原重夫氏、秋田大学教育文化学部非常勤講師沢屋隆世氏の2氏から評価していただきました。

### (4) 外部評価後の検証・実施

外部評価を踏まえ、事務事業を再検証し、できる限り今後の施策に反映していきます。

---

## 【参考】

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 3 教育委員会の活動に関する事務

#### (1) 教育委員会の会議の開催状況

教育委員会の会議は、毎月1回開催する定例会と必要に応じて開催する臨時会があります。令和2年度は、定例会のほか臨時会を1回開催し、合計13回開催しました。

開催期日 及び場所	議 案
R2. 4. 28 (定例会) 大曲図書館	議案第19号 令和元年度大仙市一般会計補正予算(第13号)案に関する臨時代理について 議案第20号 大仙市教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定に関する臨時代理について 議案第21号 大仙市会計年度任用職員(学校用務員)就業規則の制定に関する臨時代理について 議案第22号 大仙市教育委員会事務局専決規程の一部を改正する訓令の制定に関する臨時代理について 議案第23号 大仙市地域学校協働活動推進員設置要綱の制定に関する臨時代理について 議案第24号 大仙市就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱の制定に関する臨時代理について 議案第25号 令和2年度大仙市一般会計補正予算(第2号)案に関する臨時代理について 議案第26号 奨学資金運営審議会委員の委嘱について 議案第27号 大仙市立図書館協議会委員の任命について
R2. 5. 27 (定例会) 大曲図書館	議案第28号 大仙市公民館条例等の一部を改正する条例案に関する臨時代理について 議案第29号 令和2年度大仙市一般会計補正予算(第5号)案に関する臨時代理について
R2. 6. 24 (定例会) 大曲図書館	議案第30号 令和2年度大仙市一般会計補正予算(第6号)案に関する臨時代理について 議案第31号 大仙市教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定について 議案第32号 大仙市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について 議案第33号 給食センター運営委員会委員の任命又は委嘱について
R2. 7. 22 (定例会) 大曲図書館	議案第34号 令和2年度大仙市一般会計補正予算(第7号)案に関する臨時代理について 議案第35号 大仙市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第36号 教育支援専門検査員の委嘱について 議案第37号 大仙市立中学校用教科用図書の採択について
R2. 8. 21 (定例会) 大曲図書館	議案第38号 令和2年度大仙市一般会計補正予算(第9号)案に関する臨時代理について 議案第39号 大仙市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例案について

	<p>議案第 40 号 財産の取得について</p> <p>議案第 41 号 財産の取得について</p> <p>議案第 42 号 財産の取得について</p> <p>議案第 43 号 財産の取得について</p> <p>議案第 44 号 令和 2 年度大仙市一般会計補正予算（第 10 号）案について</p> <p>議案第 45 号 令和 2 年度大仙市学校給食事業特別会計補正予算（第 1 号）案について</p> <p>議案第 46 号 教育に関する事務の点検・評価報告書案について</p>
R2. 9. 29 (定例会) 大綱交流館	議案第 47 号 大仙市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について
R2. 10. 28 (定例会) 大曲図書館	議案なし（報告案件のみ）
R2. 11. 20 (定例会) 大曲図書館	<p>議案第 48 号 大仙市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定について</p> <p>議案第 49 号 大仙市営大曲キャンプ場設置及び管理に関する条例を廃止する条例の制定について</p> <p>議案第 50 号 大仙市総合公園テニスコート等の指定管理者の指定案について</p> <p>議案第 51 号 協和スキー場等の指定管理者の指定案について</p> <p>議案第 52 号 太田振興緑地広場等の指定管理者の指定案について</p> <p>議案第 53 号 令和 2 年度大仙市一般会計補正予算（第 15 号）案について</p> <p>議案第 54 号 令和 2 年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算（第 1 号）案について</p> <p>議案第 55 号 大仙市教育委員会職員の処分について</p>
R2. 12. 23 (定例会) 大仙市役所 大曲庁舎	<p>議案第 56 号 大仙市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定に対する意見聴取に関する臨時代理について</p> <p>議案第 57 号 大仙市文化財保護条例施行規則等を廃止する規則の制定について</p> <p>議案第 58 号 大仙市カモシカ食害対策事業補助金交付要綱及び大仙市指定文化財貸付要綱を廃止する告示の制定について</p> <p>議案第 59 号 大仙市立小中学校通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について</p>

令和 3 年

R3. 1. 27 (定例会) 大仙市役所 大曲庁舎	<p>議案第 1 号 大仙市立図書館の管理及び運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>議案第 2 号 大仙市スクールバス運行管理規程の一部を改正する訓令の制定について</p> <p>議案第 3 号 大仙市立小中学校文書取扱規程の一部を改正する訓令の制定について</p>
R3. 2. 19 (定例会) 大曲図書館	<p>議案第 4 号 令和 2 年度大仙市一般会計補正予算（第 17 号）案に関する臨時代理について</p> <p>議案第 5 号 令和 2 年度大仙市一般会計補正予算（第 18 号）案に関する臨時</p>

	<p>代理について</p> <p>議案第 6 号 大仙市公民館条例の一部を改正する条例案に関する臨時代理について</p> <p>議案第 7 号 大仙市市民会館等に関する条例の一部を改正する条例案に関する臨時代理について</p> <p>議案第 8 号 大仙市招致外国青年住宅条例を廃止する条例案に関する臨時代理について</p> <p>議案第 9 号 令和 2 年度大仙市一般会計補正予算（第 19 号）案に関する臨時代理について</p> <p>議案第 10 号 令和 2 年度大仙市奨学資金特別会計補正予算（第 1 号）案に関する臨時代理について</p> <p>議案第 11 号 令和 3 年度大仙市一般会計予算案に関する臨時代理について</p> <p>議案第 12 号 令和 3 年度大仙市学校給食事業特別会計予算案に関する臨時代理について</p> <p>議案第 13 号 令和 3 年度大仙市奨学資金特別会計予算案に関する臨時代理について</p> <p>議案第 14 号 令和 3 年度大仙市スキー場事業特別会計予算案に関する臨時代理について</p>
R3. 2. 25 (臨時会) 大曲図書館	議案第 15 号 県費負担教職員の人事の内申について
R3. 3. 24 (定例会) 大曲図書館	<p>議案第 16 号 大仙市教育委員会の組織再編に伴う関係規則の整備に関する規則の制定について</p> <p>議案第 17 号 大仙市教育委員会の組織再編に伴う関係訓令の整備に関する訓令の制定について</p> <p>議案第 18 号 大仙市地域学校協働活動推進員設置要綱の一部を改正する訓令の制定について</p> <p>議案第 19 号 大仙市立中学校生徒海外派遣事業実施要項の一部を改正する告示の制定について</p> <p>議案第 20 号 大仙市立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>議案第 21 号 大仙市部活動指導員設置規則の制定について</p> <p>議案第 22 号 大仙市教育機関の長に対する事務委任規程の一部を改正する訓令の制定について</p> <p>議案第 23 号 大仙市就学援助費支給要綱及び大仙市特別支援教育就学奨励費支給要綱を廃止する告示の制定について</p> <p>議案第 24 号 教育アドバイザーの任命について</p> <p>議案第 25 号 教育アドバイザーの任命について</p> <p>議案第 26 号 大仙市市民会館等運営連絡協議会委員の委嘱について</p> <p>議案第 27 号 大仙市市民会館等運営連絡協議会専門委員会委員の委嘱について</p>

※ 議案番号は暦年による一連番号

※ 9 月定例会は移動教育委員会として開催

(2) 教育長・委員の活動状況

【入学式】

日 程 令和2年4月7日～10日  
場 所 小学校21校、中学校11校 全32校  
出席者 教育長、教育委員、教育委員会部・課・所・館長

【公民館訪問】

日 程 令和2年4月13日、16日、23日  
場 所 市内8公民館  
訪問者 教育長、部長、課長、総合図書館長、総合市民会館長、地域学校協働活動推進員

【学校訪問】

日 程 令和2年6月22日～11月12日 全32日程  
場 所 小学校21校、中学校11校 全32校  
訪問者 教育長、教育委員、教育指導部・課長、教育総務課長、各地域公民館長 ほか

【卒業式】

日 程 令和3年3月13日～16日  
場 所 小学校21校、中学校11校 全32校  
出席者 教育長、教育委員、教育委員会部・課・所・館長

(3) 教育長・委員の研修状況

【令和2年度秋田県市町村教育委員会連合会第1回定期総会】

時 期 令和2年6月 書面決議

【令和2年度秋田県都市教育長協議会第1回定期総会】

時 期 令和2年6月 書面決議

【令和2年度東北六県市町村教育委員会連合会定期総会】

時 期 令和2年9月 書面決議

【令和2年度大仙市教育委員会委員研修視察】

日にち 令和2年9月29日  
場 所 大綱交流館、大綱の里伝承館  
出席者 教育長、教育委員、部課所館長 全24人

【令和2年度県南地区教育長会議】

日にち 令和2年11月10日  
場 所 横手市役所本庁舎 5階 第2・3委員会室  
出席者 教育長、教育指導部長

【令和2年度大仙仙北美郷教育委員会連絡会】

日にち 令和2年11月16日  
場 所 美郷町中央ふれあい館  
出席者 教育長、教育委員、教育指導部長、生涯学習部長、教育指導課長、教育総務課長、  
ほか教育委員会職員4人

【令和2年度全県市町村教育委員会教育長会議】

日にち 令和2年11月24日  
場 所 秋田県庁第2庁舎 8階 大会議室  
出席者 教育長、風登教育委員

#### 4 総合教育会議の開催状況

総合教育会議とは、平成27年4月に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づき、市長と教育委員会を構成員として設置されるもので、市長と教育委員会が教育の課題やあるべき姿を共有し、相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としています。

令和3年2月1日、大仙市役所大曲庁舎において令和2年度第1回大仙市総合教育会議を開催しました。この会議では、行政組織の再編に伴う要望及び大仙市教育大綱見直しについての意見交換とともに、ふるさと教育について協議を行っています。

##### 【令和2年度第1回大仙市総合教育会議】

日 時 令和3年2月1日（月） 午後3時

場 所 大仙市役所大曲庁舎 3階 大会議室

協議事項 (1) 行政組織再編に伴う要望及び大仙市教育大綱見直しへの意見交換  
(2) ふるさと教育について



## 事務事業の点検・評価表

	番号	1	分野	学校教育	担当課	教育総務課														
<b>事業名</b>	奨学資金貸付事業																			
<b>事業の目的</b>	この事業は、経済的な理由で進学を断念することがないように大学生等及び高校生に奨学金を貸与し、有為な人材育成を図ることを目的とする。																			
<b>事業の実施状況</b>	事業費			18,200千円																
	令和2年度は、大学生等及び高校生に次のとおり奨学資金を貸与した。 1 月額奨学金 ( )内は令和2年度新規認定者数 大学生等   月額 4万円   38(15)人   1,786万円 高校生     月額 2万円    1(0)人     24万円  2 特別奨学金(入学一時金)令和2年度貸与者(新規認定者のうち、希望者のみ) 大学生等         10万円     1人         10万円																			
	<b>【年度別新規認定者数】</b> (単位:人) <table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 10%;">29年度</th> <th style="width: 10%;">30年度</th> <th style="width: 10%;">元年度</th> <th style="width: 10%;">2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学生等</td> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">15</td> </tr> <tr> <td>高校生</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </tbody> </table>							29年度	30年度	元年度	2年度	大学生等	17	8	10	15	高校生	4	0	1
	29年度	30年度	元年度	2年度																
大学生等	17	8	10	15																
高校生	4	0	1	0																
<b>自己評価</b>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span><input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した</span> <span><input type="checkbox"/> おおむね達成した</span> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span><input type="checkbox"/> 達成したが課題があった</span> <span><input type="checkbox"/> 達成できなかった</span> </div> <p>この制度の申込者は年度によりばらつきはあるものの、大学生等については多くても定員の8割弱程度で、高校生についてはほとんど申請がない状況である。高校生の申請が少ない要因としては、高校授業料の支援制度が影響しているものと考えられる。 この制度を利用した者のほとんどが卒業又は就職できていることから、有為な人材育成が図られていると判断している。</p>																			
<b>課題等</b>	償還金の収納率が毎年低下していることから、滞納者の個々の実情を考慮しつつ、場合によっては支払督促を実施するなど適切に対処する必要がある。																			
<b>外部評価 有識者の 意見・評価</b>	<p>○厚生労働省が2020年に発表した資料によると、日本の子どもの相対的貧困率は13.5%だった。これは、日本の子どもの7人に1人が相対的貧困状態にあることを示している。コロナ禍により、貧困率は更に高まっているのではないだろうか。 親の経済的貧困によって子どもの教育機会が奪われることのないよう、この事業は是非継続していただきたい。</p> <p>◇この制度を利用した者のほとんどが卒業又は就職できていることから、市民一人一人の教育保障の意味においても有益な事業であると言える。収納率が低下すると今後の貸付にも影響が出る可能性があるため、利用者の事情によって収納を工夫するとともに、奨学金返還助成事業の周知等を含めた柔軟な対応があればありがたい。</p>																			

## 事務事業の点検・評価表

	番号	2	分野	学校教育	担当課	教育総務課
<b>事業名</b>	奨学金返還助成事業					
<b>事業の目的</b>	この事業は、修学時に市が指定する奨学金の貸与を受けた者に対し、秋田県内に就職後、その返還額の一部を市が助成することにより、若年層等の市内定着を促進するとともに、次世代を担う人材の育成及び確保を図ることを目的とする。					
<b>事業の実施状況</b>	事業費					0千円
<b>自己評価</b>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>1 事業概要</p> <p>① 助成額:前年度の奨学金の返還実績額の3分の1の額(限度額6万4,000円)</p> <p>② 助成期間:5年間</p> <p>③ 助成対象者:次のアからウまでのいずれかに該当し、かつ、エ及びオのいずれにも該当する者(ただし、公務員等は除く。)</p> <p>ア 令和元年度以降に高校、大学等を卒業又は退学した者にあつては、令和2年4月1日以降に就職(自営業を含む。以下同じ。)したもの</p> <p>イ 平成30年度に県内の高校、大学等を卒業又は退学した者にあつては、令和2年度以降に初めて就職したもの</p> <p>ウ 平成30年度以前に高校、大学等を卒業又は退学した者にあつては、平成31年4月1日以降に大仙市に転入し、就職したもの。ただし、転入時点で通算1年以上大仙市外に居住実績を有する者又は秋田県のAターン希望登録者である者に限る。</p> <p>エ 大仙市内に住所を有する者。ただし、秋田県内に本社機能を有する企業等に雇用された大仙市外に住所を有する者のうち、秋田県外又は大仙市外の事業所又は事務所等に一時的に配属され勤務しているもので、大仙市内から通勤することが極めて困難と認められるものについては、大仙市内に住所を有する者とみなす。</p> <p>オ 大仙市税を滞納していない者</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>2 認定申請等</p> <p>令和2年度は20人を認定し、令和3年度から助成金を交付する。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した</p> <p><input type="checkbox"/> 達成したが課題があった</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><input type="checkbox"/> おおむね達成した</p> <p><input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> </div> </div> <p>この制度の創設に当たっては、県の先行制度などを参考に制度設計したが、本市に合った制度を作るとともに、順調なスタートを切ることができた。</p>					
<b>課題等</b>	<p>市民への周知については、市の広報やホームページのほか様々な機会を捉えて周知に努めているが、始まったばかりということもあり、浸透しているとはいえない。</p> <p>今後、様々な機会を捉え、周知に努めていきたい。</p>					
<b>外部評価 有識者の意見・評価</b>	<p>○一昨年の外部評価委員会で、返還免除の給付型奨学金制度が話題になったが、返還免除とまではいかないまでも、返還に対する助成事業を創設して、対象者にしっかり手当てしていることは、大いに評価できる。</p> <p>更に充実させていただきたい事業である。</p> <p>◇奨学金貸付事業を利用した者にとって、地元に戻り就職すると奨学金返還の3分の1が助成されることは、首都圏等と秋田の賃金比較の際の参考とし、地元への就職を考えるきっかけにもなり得る。</p> <p>今後は、奨学金利用者にはもちろんのこと、これから利用する可能性がある方々にも広く周知に努めていただきたい。</p>					

## 事務事業の点検・評価表

番号	3	分野	学校教育	担当課	教育指導課																							
事業名	大仙グローバルジュニア育成事業																											
事業の目的	国際化の進展に伴い重要視される国際理解教育及び外国語教育の充実のため、外国語指導助手(ALT)・国際交流員(CIR)等を配置し、児童生徒の国際感覚、コミュニケーション能力の向上を図る。また、グローバル人材の育成や令和2年度からの小学校学習指導要領の全面実施を踏まえ、英語教育アドバイザーの配置により小学校英語教育の指導体制を強化するとともに、児童生徒の体験活動の充実や教員の指導力向上のための体制の強化を図る。																											
事業の実施状況	事業費	39,773千円																										
	①外国語指導助手等招致事業 ALT・CIRを配置し、中学校外国語の学習指導及び小学校等における外国語活動等を実施。令和2年度は前年度から1人増員の10人の配置を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、帰国者2人に対して新規ALT3人が来日できなかったため、年度末時点での配置人数は7人となっている。	<b>【ALT・CIR配置人数】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">H30</th> <th rowspan="2">R1</th> <th colspan="2">R2</th> </tr> <tr> <th>年度当初</th> <th>年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ALT</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>CIR</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>					H30	R1	R2		年度当初	年度末	ALT	8	9	9	7	CIR	1	1	1	1	計	9	10	10	8	
		H30	R1	R2																								
年度当初				年度末																								
ALT	8	9	9	7																								
CIR	1	1	1	1																								
計	9	10	10	8																								
②グローバルジュニアマイスター育成事業 児童生徒が、海外や県外の方々と英語等を使ったコミュニケーションや情報交換、観光案内などの目的をもった交流活動を実施した場合に、内容に応じてポイントを付与し、グローバルジュニアマイスターに認定した。	<b>【グローバルジュニアマイスター認定者数】</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブロンズ</td> <td>237</td> <td>197</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>シルバー</td> <td>70</td> <td>80</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>ゴールド</td> <td>24</td> <td>36</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>マイスター</td> <td>6</td> <td>18</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>337</td> <td>331</td> <td>216</td> </tr> </tbody> </table>					H30	R1	R2	ブロンズ	237	197	109	シルバー	70	80	58	ゴールド	24	36	35	マイスター	6	18	14	計	337	331	216
	H30	R1	R2																									
ブロンズ	237	197	109																									
シルバー	70	80	58																									
ゴールド	24	36	35																									
マイスター	6	18	14																									
計	337	331	216																									
③英語教育アドバイザー配置事業 英語教育アドバイザー1人を配置し、学級担任とのチームティーチングによる授業、教員の授業力向上、外国語指導の教材準備・環境整備、ALTに対する指導や研修を実施した。																												
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった <p>令和2年度前半においてはALT9人を配置することで、中学校外国語の学習指導に加え、小学校における外国語活動の授業時数のおよそ半分はネイティブスピーカーとの授業を実施できる体制を整えることができた。令和2年度後半においては新型コロナウイルスの影響によりALT1人の増員ができなかったほか、帰国者2人と入替の新規ALT2人の来日もできておらず、欠員が生じている小・中学校へは再任用ALT7人を派遣して対応した。しかし、本来の勤務校への派遣時数を減らしての対応となったため、児童生徒が生きた英語に触れる機会が減少することとなった。 また、グローバルジュニアマイスター育成事業においては、ポイントが付与される場面が限定されるため、機会の確保が難しく、児童生徒がALTと話す機会が十分に確保できなかったのではないかと考える。限られた機会を生かすために、意欲的な取組には積極的にポイントを与えていく必要がある。</p>																											
課題等	新型コロナウイルスの影響により新規ALTの来日の見通しが立っておらず、各小・中学校におけるALTの授業への参加時数が不十分となることが考えられる。ALT・CIRの配置校や授業時数を考慮しながら、児童生徒が生きた英語に触れる機会を保障することでコミュニケーション能力の素地や基礎が一層養われていくように、効率的で効果的な派遣やオンライン授業を活用する等、工夫・改善をしていく必要がある。																											
外部評価	○コロナ禍の影響を、直接的に受けた事業といえる。ALTの配置が思惑通りいかない中、各校へ効果的に派遣しようと工夫していることが、十分に見て取れた。収束後の反転攻勢に向けて、今は少し耐える時期だと思う。 「ふるさと博士育成事業」や「大仙教育メソッド」と並ぶ大仙市教委の特色ある事業なので、是非継続をお願いしたい。																											
有識者の意見・評価	◇国際理解教育や外国語教育の充実のため、小学校でも令和2年度から新学習指導要領の完全実施となった。3年生から外国語に触れる機会や実体験としてALT等のネイティブスピーカーと直に触れ合うことは大変重要である。その意味において、昨年度はコロナ禍の中であっても担当者が工夫しながら実施できたことはありがたい。 今後は、全員に配布されるタブレット端末をうまく活用するなど、児童生徒のコミュニケーション能力等の育成に向けてより積極的に取り組んでいただきたい。																											

## 事務事業の点検・評価表

番号	4	分野	学校教育	担当課	教育指導課																																			
事業名	学校生活支援事業																																							
事業の目的	この事業は、小・中学校において、学校生活を送る上で様々な配慮が必要な児童生徒に対して支援員を配置し、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を行うことにより教育環境の充実を図ることを目的とする。																																							
事業の実施状況	事業費	111,909千円																																						
	<p>1 学校生活支援員等の配置</p> <p>①学校生活支援員 配置校: 18校 特別な支援を必要とする児童生徒に対し、学校生活全般において支援を行う。</p> <p>②日本語指導支援員 配置校: 2校 海外出身等の日本語指導支援を必要とする児童生徒に対し、支援を行う。</p> <p>③学校生活支援員(看護師) 配置校: 1校 学校において医療的ケアを必要とする児童生徒に対し支援を行う。</p> <p>④複式学級支援員 配置校: 2校 複式学級の学習及び生活指導に当たる担任の補助等を行う。</p> <p>2 教育アドバイザーの配置 特別支援教育アドバイザーとして1人を配置。全小・中学校を訪問して授業を視察し、特別支援教育の具体的な支援方法や学校体制について助言を行う。</p> <p>【支援員等配置人数及び決算額】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">支援員数 (単位:人)</th> <th colspan="4">内訳</th> <th rowspan="2">教育アドバイザー (単位:人)</th> <th rowspan="2">決算額 (単位:千円)</th> </tr> <tr> <th>①学校生活支援員</th> <th>②日本語指導支援員</th> <th>③学校生活支援員(看護師)</th> <th>④複式学級支援員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30</td> <td>61</td> <td>56</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>98,285</td> </tr> <tr> <td>H31(R1)</td> <td>61</td> <td>55</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>95,917</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>60</td> <td>54</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>111,909</td> </tr> </tbody> </table>					年度	支援員数 (単位:人)	内訳				教育アドバイザー (単位:人)	決算額 (単位:千円)	①学校生活支援員	②日本語指導支援員	③学校生活支援員(看護師)	④複式学級支援員	H30	61	56	1	1	3	1	98,285	H31(R1)	61	55	2	1	3	1	95,917	R2	60	54	2	1	3	1
年度	支援員数 (単位:人)	内訳						教育アドバイザー (単位:人)	決算額 (単位:千円)																															
		①学校生活支援員	②日本語指導支援員	③学校生活支援員(看護師)	④複式学級支援員																																			
H30	61	56	1	1	3	1	98,285																																	
H31(R1)	61	55	2	1	3	1	95,917																																	
R2	60	54	2	1	3	1	111,909																																	
自己評価	<p><input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> おおむね達成した</p> <p><input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>学校生活支援員の配置により、学校生活を送る上で様々な配慮が必要な児童生徒に対し、きめ細やかな支援ができています。また、このことが学習環境の整備にもつながり、支援が必要な児童生徒だけでなく、他の児童生徒も学習への意欲をもって取り組むことができるようになっていいます。</p> <p>さらに、教育アドバイザーによる学校及び学級の支援体制や支援方法についての助言によって、より一層、特別支援教育の充実を図ることができています。</p>																																							
課題等	児童生徒数が減少傾向にある一方で、発達障がい等があるなど支援を要する児童生徒は増えている。また、発達の過程や学校、家庭等の環境の変化により、支援の必要性が高まるケースも増えており、予算の確保を含め対応する支援員の体制を整えていくことが課題である。																																							
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○少子化の中にあっても、特別な支援を必要とする児童生徒は確実に増えており、学校生活支援員等の配置は、今や学校経営に欠かすことのできないものとなっている。</p> <p>本事業は、継続が必須な最重要事業といえる。</p> <p>支援員の資質向上研修も、更なる充実深化を望む。</p> <p>◇一人一人の児童生徒へのきめ細かな支援を行う意味で非常に重要な事業である。支援を受ける児童生徒はもちろんのこと、一緒に学ぶ児童生徒も安心して学べる教育環境を生んでいる。支援の対応が多岐にわたり、家庭の理解も必要となることもあり、担任や支援員は、関わる児童の支援について悩んでいることもあるので、十分な支援体制を構築する意味でも教育アドバイザーの配置は必要である。</p>																																							

## 事務事業の点検・評価表

		番号	5	分野	学校教育	担当課	施設管理課
事業名	花館小学校校舎増築事業						
事業の目的	この事業は、花館小学校区における児童数の増加に対応するため、校舎を増築し、教室数を確保することにより、快適で安全・安心な教育環境の充実を図ることを目的とする。						
事業の実施状況	事業費		147,120千円				
	(事業概要) 花館小学校普通教室棟南側敷地に鉄骨造2階建ての普通教室棟を増築した。 教室数 : 4教室 建築面積 : 208.15㎡ 延べ面積 : 401.32㎡ (事業費決算額) 実施設計費(令和元年度) 3,960,000円 設計監理費(令和2年度) 726,000円 工事監理費( ) 2,915,000円 工事請負費( ) 136,400,000円 検査手数料( ) 31,000円 備品購入費( ) 3,087,700円 (計) 147,119,700円						
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった						
	花館小学校は、平成30年度までは少人数学習ができる教室が2教室あったが、児童数の増加により通常学級が令和3年度は2増となり、令和4年度には3増となるため、少人数学習ができなくなることが見込まれていた。 こうした中、校舎増築事業が順調に進み、令和3年度から少人数学習ができるようになったことは、評価に値する。						
課題等	花館小学校には築42年の普通教室棟と築34年の屋内運動場がある。 これらの学校施設は老朽化が進んでおり、建替や改修等に要する多額の費用が見込まれている。 こうしたことから、令和2年度に策定した「大仙市学校施設長寿命化計画」に基づき、予防保全的な観点も含めて計画的な改修等を実施し、長寿命化による更新コストの縮減と予算の平準化を図る必要がある。						
外部評価 有識者の意見・評価	○当該校の児童数が増加する中、校舎の増築によって効果的に少人数学習を行うことが可能になったことは、大いに評価できる。 市内小・中学校の校舎の多くは、老朽化が進んでいる。今後、市の「学校施設長寿命化計画」に基づいて、他校の校舎も計画的に改修等を行っていただきたい。 ◇大仙市全体では生徒減少の中、花館小学校のみ増加に転じる状況で校舎増築を行ったが、既存校舎がだいぶ老朽化している。 今後も、限られた予算の中、増築した校舎の活用を含め、計画的な改修や改築などの工夫に努めていただきたい。						

## 事務事業の点検・評価表

	番号	6	分野	生涯学習	担当課	生涯学習課
事業名	学校・家庭・地域連携総合推進事業					
事業の目的	<p>未来を担う子どもたちの成長を支えるには、地域と学校が連携・協働し、地域全体で教育を行うことが重要である。</p> <p>そのため幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動(地域学校協働活動)を推進し、また、活動を通じて子どもたちの社会性・自主性・創造性等の豊かな人間性を涵養するとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもたちが安心して暮らせる環境づくりを推進する。</p>					
事業の実施状況	事業費		3,463千円			
	<p>これまでの学校支援から地域学校協働活動へ転換し、地域と学校の双方向型の「連携・協働」を推進するため、大仙市地域学校協働活動推進員設置要綱を制定、統括推進員及び推進員を委嘱して協議会を年2回開催した。また活動が「総合化・ネットワーク化」へと発展するため、市内小中学校及び推進員への活動目的の共通理解と公民館を拠点とした組織体制の見直しを図り、令和3年度からの新体制へ結び付いた。</p> <p><b>【平成30年度】</b></p> <p>①学校支援活動 10本部…高校、大学との交流、登下校の見守り、学校行事支援 など</p> <p>②放課後子ども教室 26教室…囲碁・将棋教室、学習会 など</p> <p><b>【令和元年度】</b></p> <p>①学校支援活動 10本部…こども園、中学校、農業高校との交流、花火ボランティア など</p> <p>②放課後子ども教室 24教室…夏休み学習会、読み聞かせ、郷土芸能教室など</p> <p><b>【令和2年度】</b></p> <p>①協働活動 10本部…多様な地域人材との交流、地域文化学習、地域企業見学、花壇農作業体験 など</p> <p>26人…地域学校協働活動推進員(コーディネーター)数</p> <p>②放課後子ども教室 33教室…地域の先生出前講座、学びい教室など</p>					
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった		<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった			
	<p>これまで本部校のみの学校支援活動がメインで膠着化していた本事業に、令和2年度は具体的な対策を講じ、事業本来の目的や時代の流れに沿ったビジョンを学校と公民館、地域関係者が共有することができたため、全市的な活動の広がり結び付き、大仙教育メソッドのツールとして機能する持続可能な体制づくりへ前進した。</p> <p>また、コロナ禍だからこそ地域の力を学びに生かして放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携事業を実施し、教室数が増加した。</p>					
課題等	<p>・効果的かつ一体的に学校と地域が連携を図るためには、双方がビジョン・目標について共有を図れる場が必要である。学校教育分野と生涯学習分野が縦割り組織を超えた連携を図り、大仙教育メソッドの理念に基づいた施策を検討していくことが望ましい。</p> <p>・多くの地域住民が参画することによって効果がもたらされる事業のため、活動内容や目的について広く地域住民へ周知を図ることが必要である。</p>					
外部評価	<p>○一層の充実深化が期待される事業である。</p> <p>「地域学校協働本部」については、大仙市では各中学校区に「推進員」を配置し、協働本部機能を各地区公民館が受け持つ体制がスタートしている。このことに、大きな可能性を感じる。公民館と連動した大仙市独自のシステムとして、是非機能させていただきたい。</p> <p>「放課後子ども教室」については、実施地域がやや限定的かと感じる。放課後児童クラブを所管する子育て支援課との連携を図りながら、今後、市内全域に拡充されるよう期待している。</p>					
有識者の意見・評価	<p>◇大仙教育メソッドは「地域の活性化に寄与できる人材の育成」に向けて、中学校区ごとに小中の連携はもちろんのこと、学校教育と社会教育が有機的に連携・協力する体制を構築して臨む大仙市の特色ある取組である。令和2年度からは地域と学校をつなぐ役割を担う地域学校協働活動推進員を全学校数に応じて配置した。</p> <p>今後は、更なる推進員の活用を進め、地域住民に広く活動を周知して参画を図り、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を推し進め、地域全体で子どもを育てる体制の整備を一層進めていただきたい。</p>					

## 事務事業の点検・評価表

		番号	7	分野	生涯学習	担当課	神岡中央公民館
事業名	おもしろ講座						
事業の目的	歴史や文化、自然科学など様々な分野の専門家を講師に招いて市民講座を開催し、学ぶ楽しさを体感しながら自己の知識や教養を深めるとともに、生涯学習の推進や郷土理解を図る。						
事業の実施状況	事業費						237千円
	<p>平成4年8月に「郷土史おもしろ講座」として開講した。当初は、郷土の歴史や文化をテーマとした講座としてスタートしたが、郷土史に限定せず幅広い分野のテーマを盛り込むため「おもしろ講座」に名称を変更した。令和3年3月で通算327回を数えている。</p> <p>1 開催期日 令和2年5月20日～令和3年3月17日(1月を除き月1回・延べ10回開講)  2 開催場所 かもおか嶽雄館ビデオシアターホール、神岡農村環境改善センター多目的ホール(9月は市外への視察研修に代え、特別講座開催)  3 講座内容 歴史・民俗5回、自然・科学3回、芸術1回、地域1回</p> <p>平成30年度会員数 57人 延べ受講者数 373人 ※年9回開講(9月は市外への視察研修)  令和元年度会員数 57人 延べ受講者数 359人 ※年8回開講(9月は市外への視察研修)  令和2年度会員数 56人 延べ受講者数 377人 ※年10回開講</p>						
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった						
	<p>・テーマが豊富で年間を通して受講できることから受講者に喜ばれている。  ・神岡町時代からの公民館の講座として開設。合併後は、口コミで人気が高まり、地域外からの受講者も確保できた。※R2は21人/56人(38%)  ・市の広報で情報提供することにより、単発で聴講される方もおり講座の活性化につながっている。  ・年間講座に県庁の出前講座等を組み込むことにより経費の節減を図るとともに、アンケートによる希望ジャンルの調査も行い、講座全体の内容の充実を図っている。</p>						
課題等	<p>・魅力ある講座の提供が受講者確保につながることから、常に受講者ニーズの把握に努める必要があるが、限られた予算で講師を確保することが課題となっている。  ・受講者数はほぼ横ばいであるが、高齢等により退会される方もいるので、講座の魅力をアピールし、新規受講者の拡大に努める必要がある。</p>						
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○大人の知的好奇心に答え得る特色ある事業といえる。神岡地域外からの参加者が増えていることにも好感もてる。今後も長く続けていただきたい事業である。  コロナ禍の中でも、担当者の必死の工夫により、昨年度計10回の講座を開催できていることには敬意を表する。  欲をいえば、歴史や文化、教養を中心とした講座に加えて、今後は、地域が直面する課題の解決をテーマとした内容などの実施も検討していただきたい。</p> <p>◇神岡地域外から約4割近くの参加があるなど、人気のある講座である。それは、魅力ある内容とするための工夫がされているからこそであると思う。予算が限られる中、県庁出前講座や大仙市地域おこし協力隊などを活用しながら実施できた。  受講生のアンケートやニーズをうまく生かしながら、今後も魅力ある講座を行っていただきたい。</p>						

## 事務事業の点検・評価表

	番号	8	分野	生涯学習	担当課	大綱交流館
<b>事業名</b>	2020カッコイイ親父教室 IN オータム ～親子で防災キャンプ～					
<b>事業の目的</b>	この事業は、大災害発生時において電気と水道のライフラインが絶たれた場合を想定し、災害時に役立つキャンプの技術や知識を得ることにより、たくましく生き抜く力を養うとともに、親子と一緒に学ぶことによりその絆を深めることを目的とする。					
<b>事業の実施状況</b>	事業費			76千円		
	1 参加人数 2 対象者 3 指導・協力 4 開催日時 場所・内容	延べ75人 西仙北地域の小学生・中学生の親子 秋田県キャンプ協会、日本赤十字社秋田県支部、日赤大仙市地区西仙北分区奉仕団、大仙市西仙北支所 <b>【1回目】</b> 11月1日（日）10：00～15：00 大佐沢公園 ①防災とキャンプの話 ②いろいろなテントを立ててみよう ③災害時に役立つキャンプ用具のあれこれ ④炊き出し訓練体験 <b>【2回目】</b> 11月8日（日）10：00～15：00 大綱交流館 ①災害時に役立つアウトドアクッキング ②キャンプを安全に楽しむために（リスク回避・救命・救急法など） <b>【3回目】</b> 11月15日（日）10：00～15：00 大佐沢公園 ①ナイフ（小刀）を使って箸を作ろう ②アウトドアクッキング（災害時でもおいしい食事） ③ロープを使ってみよう				
<b>自己評価</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった  キャンプ協会会員の指導の下、親子・友達で協力しながらテントの設営やアウトドアクッキングを経験し、災害時でも活用できる技術や知識を学習することができた。 参加者からも好評で、充実した時間を過ごすことができたといった感想が寄せられ、新規事業であるが、順調なスタートを切ることができた。					
<b>課題等</b>	令和2年度は主に父親と子を対象としたが、今後は、母親や家族みんなで気軽に参加できるような開催内容を検討していきたい。					
<b>外部評価 有識者の 意見・評価</b>	○率直に言って、事業のネーミングがとてもよい。そそられる事業名である。父親の子育て参画を意図した新規事業であることが、すぐに読み取れる。 開館したばかりの大綱交流館をうまく活用しつつ、地域課題である災害(水害)対応をテーマとしている点が素晴らしい。 是非継続していただきたい事業である。 ◇防災は、西仙北地域では地域課題でもある。地域課題に関連した取組に親子、とりわけ父親の参画を図り、昨今人気のアウトドアをうまく組み合わせて行う素晴らしい企画である。また、指導者も地域人材を活用するなど随所に工夫が見られる。 今後、是非とも大仙市全体に広げて実施していただきたい。					



## 事務事業の点検・評価表

	番号	9	分野	芸術・文化	担当課	中仙公民館
<b>事業名</b>	ドンパル講座					
<b>事業の目的</b>	地域住民の一人一人が生涯学習に取り組むきっかけづくりの場を設けるとともに、心の豊かさや生活の向上に資することを目的に開催する。					
<b>事業の実施状況</b>	事業費					10千円
	<p>①【婦人会対象講座】※新型コロナウイルス感染拡大により中止</p> <p>②【デインプルアート】(硝子の塗り絵)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：デインプルアート秋田 一戸通男</li> <li>・日時：令和2年8月3日(月)午前10時～正午</li> <li>・場所：中仙市民会館 研修室A・B</li> <li>・参加者：14人</li> </ul> <p>③【吊るし飾り～初心者向け～】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師：さんらび(吊るし飾りの会)</li> <li>・日時：1回目 令和2年10月12日(月)午後1時～午後2時30分 2回目 令和2年10月26日(月)午後1時～午後2時30分</li> <li>・場所：中仙市民会館 研修室A・B</li> <li>・参加者：延べ23人</li> </ul> <p style="text-align: center;">～過去のドンパル講座実績～</p> <p>【令和元年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>元気の出る講習会：16人参加</li> <li>デインプルアート：16人参加</li> <li>吊るし飾り～初心者向け～ 2回開催：延べ42人参加</li> </ul> <p>【平成30年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生け花体験講座：10人参加</li> <li>デインプルアート：17人参加</li> <li>飾り花結び 2日開催：20人参加</li> </ul>					
<b>自己評価</b>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> 順調に達成した  <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった                 </div> <div style="width: 45%;"> <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した  <input type="checkbox"/> 達成できなかった                 </div> </div> <p>・この事業は、「ドンパル講座」として、毎年2～3の講座を企画している。デインプルアートは、夏休み中の開催ということから親子参加もあり、人気も高い。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、様々な事業が中止の中、感染拡大防止対策・規模縮小しての開催であった。講座参加者からは、和やかな雰囲気ですべて「リフレッシュできた。」と満足した評価をいただいている。</p>					
<b>課題等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の参加者から直接感想を頂き、次年度の講座の参考にしている。これからも、参加者が満足いく講座であることと、様々な生涯学習体験に触れてもらうきっかけの講座となるような講座を開催したいと考える。女性参加者が多い傾向があるので幅広い年齢の方が気軽に参加できるような講座も取り入れていく必要がある。</li> <li>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の懸念もあり、講座の企画自体が検討の必要があった。収束してからは、地域コミュニティ的役割を担うようにPRへも力を入れていく必要があると考える。</li> </ul>					
<b>外部評価</b>	<p>○ほとんどゼロ予算と言ってもよいような少ない予算で、やり繰り算段しながら継続している事業であることが見て取れた。担当者の苦心は相当なものだったろう。</p> <p>前述したが、趣味・教養的な内容に加えて、今後は、地域が直面する課題解決に結びつくような内容の実施も検討していただきたい。</p>					
<b>有識者の意見・評価</b>	<p>◇生涯学習の入り口として実施している趣味的講座である。これはこれで意義があるが、予算も限られてい中で、趣味的な講座は受益者負担も一部検討してもいいのではないだろうか。また、継続的に活動を図る意味で、サークル活動につなげていくことも必要と思う。</p> <p>今後は、地域課題への対応や人材の育成につながる講座も検討していただきたい。</p>					

## 事務事業の点検・評価表

番号	10	分野	芸術・文化	担当課	協和公民館
事業名	芸術文化振興事業「きょうわ祭」				
事業の目的	協和地域の産業・芸術文化の振興と発展を図り、互いの学びを通してつながりを深め、生きがいのある楽しい地域社会を築くために皆が意識を共有し、地域の活性化を目指すことを目的とする。				
事業の実施状況	事業費	138千円			
	<p>毎年、テーマを設けて実施しているが、昨年は新型コロナウイルス感染症により、芸能発表と出展ブースを中止し、「明日への一歩」をテーマに6日間の作品展示会を開催して、地域住民・企業・商店が一体となり地域の力で元気を取り戻し、そして、子どもから高齢者まで楽しんでいただける作品展示会を企画した。</p> <p>令和2年度  ・日程：令和2年10月10日(土)～15日(木)  ・会場：協和市民センター「和ピア」  ・内容  芸文協加盟団体(芸能発表部門中止)・児童生徒・一般(出店部門を中止)・婦人団体・福祉施設等によるパッチワーク・絵手紙・習字等の作品展示を6日間実施し、平常時の来場者数には及ばないものの、約750人の来場があり地域住民に元気を与える内容となった。</p> <p>※来場者数 平成30年度 1,500人(2日間)  令和元年度 900人(1日)  令和2年度 750人(作品展示6日間)</p>				
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった				
	<p>地域の活性化を目指し、協和芸文協をはじめとする地域住民の学習の成果発表・展示及び鑑賞の機会を提供する場として毎年開催されてきているが、昨年度はコロナ禍における開催が課題となった。</p> <p>今年度は、豪雨災害からの復興とコロナ禍による疲弊を少しでも和らげ、地域が元気を取り戻すことを願い、また、本来の「地域祭」の在り方を再確認し、新たな企画を取り入れ公民館主導から地域全体での取組として、各団体の意見を反映し、地域活性化へ向けて実施したいと考えている。</p>				
課題等	<p>過去の通常開催は2日間で開催されていたが、今年度からは1日の日程で開催されるため、芸文協の活動成果である発表内容を削減し実施しなければならないため、調整が困難である。</p> <p>しかしながら、少子高齢化の進行、平成29・30年の豪雨災害の発生やコロナ禍と言われている中で、地域を元気に活性化を目指し、地域のつながりを大事に特色ある事業にしていかなければ集客は難しい。</p> <p>これまで公民館主導・公民館事業とした流れで実施されてきたが、その位置付けを見直し、協和地域が一体となった事業と捉え、内容の変革を図りながら取り組んでいかなければならない。</p>				
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○地域を活性化し、にぎわいを創出する事業として、是非継続していただきたい。</p> <p>公民館主導から住民主導の祭りにシフトしたいとのことだが、「四ツ屋青年塾」という若手有志によるまちづくり団体が自主運営する「四ツ屋まつり」の取組がよいモデルになるのではないだろうか。</p> <p>協和公民館はもちろんだが、各地区公民館には、今後、住民(団体)の地域活動支援や地域づくりの担い手育成に力を注いでいただきたい。</p> <p>◇協和地域全体の芸術文化祭は地域住民の発表の場となっており、今後も、工夫しながら実施をお願いしたい。昨年度はコロナ禍の中にあつて内容を工夫して実施したことは意義がある。</p> <p>調整は大変だろうが、参加している各団体にも企画段階から参画してもらうなど、運営への参画や協力をこれまで以上に図り、徐々に住民主体の「きょうわ祭」に転換を図っていただきたい。</p>				

## 事務事業の点検・評価表

	番号	11	分野	生涯学習	担当課	南外公民館
事業名	なんがいの味・食育体験交流事業					
事業の目的	次代の地域を担う子供たちに、ふるさと南外で収穫された地場産食材を活用した郷土食の創作を体験させることにより食育の基本理念である「健やかな心身の成長」を図るとともに、地元の生産農家と交流することにより地域の基幹産業である「農業の重要性」を再認識させることを目的とする。					
事業の実施状況	事業費		15千円			
	<p>南外地域で収穫したそば粉や天然水を活用し、地域の小中学校に出前教室の形で「そば打ち体験」を実施している。地域のボランティアグループを講師に依頼している。</p> <p>【実施日】 令和2年11月5日 13:10～16:00 南外中学校 令和2年12月22日 13:15～16:10 南外小学校</p> <p>【実施場所】 南外小学校・南外中学校</p> <p>【参加対象者】 南外小学校5・6年生 南外中学校1年生</p> <p>【講師】 南外そばきり愛好会</p> <p>【参加者数】 平成30年度 50人(小学校 38人・中学校 12人) 令和元年度 47人(小学校 31人・中学校 16人) 令和2年度 47人(小学校 30人・中学校 17人)</p>					
自己評価	<input type="checkbox"/> 順調に達成した <input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> 達成できなかった					
	<p>児童生徒からの評判も良く、対象者が3年間継続して体験することで地域の農業や食に対する関心も高まっている。加えて、公民館を実施場所とした全市民対象のそば打ち教室を実施することにより家庭や地域に共通の話題を提供し、交流のきっかけづくりに努めている。</p> <p>また、講師を地域のボランティアグループに依頼することで、学習者と指導者のボランティア活動に関する意識の向上につなげている。</p> <p>例年一緒に作業したグループで感想を述べ合いながら試食を行っていたが、コロナウイルス感染拡大防止のため教室に戻ってコロナ渦の給食スタイルで試食をし、マスク着用後に感想を話し合うなどコロナ渦の体験活動の在り方を検討して実施した。</p>					
課題等	<p>今後は公民館の出前教室から学校の体験活動に移行し、学校と地域学校協働活動推進員とが協働して事業を継続していく予定だが、公民館も地域の活性化を担える人材育成に寄与できる新たな事業を検討していきたい。</p>					
外部評価 有識者の意見・評価	<p>○南外の「そば」と「水」、隠れた地域ブランドとして発展させることができる可能性を秘めているような気がする。磨けば光る事業といえる。</p> <p>あくまでも理想を言えば・・・だが、ただ食べるだけでなく、栽培から収穫、加工、販売までの、いわゆる6次産業化に児童生徒も「大仙教育メソッド」や「社会に開かれた教育課程の実現」の一環として関わるようになれば素晴らしい取組になるだろう。</p> <p>南外地域が「そばのまち」になれば、住人の新たな雇用創出につながる可能性もあるだろう。</p> <p>◇学校と連携し、三年間継続してそば打ち体験を行う活動は、地場産食材に対する理解を図る意味で子どもたちには大きな意義を持つ体験であると思う。公民館事業でありながら、学校の理解・協力で行う活動は、学校教育においてもふるさとを知る良い機会となっているものと思う。</p> <p>今後は、地域学校協働活動につながる活動として工夫して実施をお願いしたい。</p>					

## 事務事業の点検・評価表

		番号	12	分野	生涯学習	担当課	仙北公民館
事業名	暮らしの達人講座						
事業の目的	この事業は、日々の暮らしや興味に役立つ講座を開催することにより、市民の生活が健康で豊かになるお手伝いをするを目的とする。						
事業の実施状況	事業費						30千円
	①対象者 大仙市民 ②開催日 7月～3月の期間中 計5企画 ③事業内容 2年度は健康や生活、地域の文化財などのテーマで講座を開催 ・7月18日(土)「なかなか知らない足・爪・靴の大切なお話」受講者23人 ・10月2日(金)「文化薫る秋の庭園を巡る」受講生22人 ・11月5日(木)「認知症サービスのいろいろ～グループホームの日常風景」受講者21人 ・11月30日(月)「骨盤を整えるヨガ」受講者22人 ・3月15日(月)「足元から整える体調改善体操」受講者53人 ④周知方法 市広報、市ホームページ、仙北地域カレンダーに掲載し、全戸配布 ⑤事業実績						
			年度	H29	H30	H31	R2
		講座数	7	6	6	5	
		受講者延べ人数	120	179	171	141	
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった  4月から年6回の講座を予定していたが、新型コロナウイルス感染状況により、7月開始で年5回の実施となった。受講後のアンケートを基に、住民のニーズや時代に合わせた講座を開催した。新型コロナウイルス感染対策のため参加人数を減らしたことで、人気のある講座はキャンセル待ちが生じた。希望者が受講できるよう講師と相談をして広い場所を確保して対応した。受講後のアンケートでは全ての講座で好評を得ることができた。						
課題等	新型コロナウイルスへの感染対策を考慮し、新しい生活様式を取り入れた講座の重要性を感じている。厳しい財源の中で会費を徴収することも視野に入れ、費用を最小限度に抑え市民のニーズに応えられるような講座の開催が必要である。						
外部評価	○コロナ禍にあっても、7月以降5企画を実施していることには、頭の下がる思いがする。担当者の苦心・工夫を十分垣間見ることができた。 この講座も前述のとおり、趣味・教養的な内容に加えて、今後は、地域が直面する課題解決に結びつくような内容の実施も検討していただきたい。						
有識者の意見・評価	◇コロナ対策もあり、人数調整を実施しなければならない講座もあるなど、住民にとって関心が高い健康を中心とした内容であり、工夫がよくされている。内容的には女性が多くなる傾向があるので、男性も参加しやすくなるような工夫があれば良いのではないだろうか。また、キャンセルがないように、複数回時間をずらして実施するなどできればお願いしたい。						

## 事務事業の点検・評価表

		番号	13	分野	生涯学習	担当課	太田公民館
事業名	親子陶芸教室						
事業の目的	この事業は、粘土をこねながら、親子で同じ目的と時間を共有し、無から形を生み出す楽しさと作品が焼き上がったときの喜びや感動を共に味わうことで、親子の絆と豊かな心を育むことを目的とする。						
事業の実施状況	事業費						18千円
	<p>親子陶芸教室は、太田地域の小学生とその家族を対象に、地域で活動している「おおた陶芸同好会」会員のボランティアにより次のとおり実施した。</p> <p>【実施日・内容】 ①形成 9月13日 ②色付け 10月4日 ③仕上げ 10月18日</p> <p>【実施場所】 太田文化プラザ、陶芸小屋</p> <p>【参加者数】 令和2年度 4組 11人 令和元年度 3組 7人 平成30年度 3組 6人</p>						
自己評価	<input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった		<input type="checkbox"/> おおむね達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった				
	<p>・創作の楽しさや発想力を高めながら、意欲的に親子一緒に取り組むことにより、親子の絆を深め、子どもの豊かな心の成長につなげることができた。</p> <p>・地域の方が指導者となることにより、自身の学習成果を生かすことができ、更なる学習意欲の向上につながっている。</p> <p>・核家族化や少子高齢化が進み、世代間のかかわりが少なくなっている。地域の方との交流により、子どものコミュニケーション能力や社会性の向上を育むことができた。</p>						
課題等	今後も様々な親子で楽しめる体験講座を開催していきたい。限られた予算であるので、地域の方や各団体等の協力を得て実施していく。						
外部評価	<p>○かつては県内の多くの公民館などに陶芸窯があったものだが、壊れてしまってそのまま手つかずになっている所も少なくない。そんな中、今でも陶芸窯を維持し続け、地域の陶芸サークルによって行われる本事業は、とても貴重である</p> <p>今後、太田地域外にも参加者を募るなどして、是非継続していただきたい事業である。</p>						
有識者の意見・評価	<p>◇陶芸に親しみたいと思っても、手間や時間などがかかる。そこで、親子を対象に、地域のボランティアを活用しながら公民館がうまくマッチングさせて実施したものである。指導者にとっても、学んだ成果の発表や地域貢献の活動の場となり、更なる意欲を育むことになる。当然、親子が作品製作を通して絆を深め、地域の方とも触れ合える機会でもある。地道であるが、このような地域の人材を活用しながら、親子で体験できる場と機会の提供をお願いしたい。</p>						

## 事務事業の点検・評価表

番号	14	分野	生涯学習	担当課	総合図書館																																																																																										
事業名	子ども読書通帳事業																																																																																														
事業の目的	この事業は、市内小中学校・支援学校小中学部の児童生徒に子ども読書通帳を配付し、児童生徒が自分で読んだ本を読書記録として活用することにより、読書に親しむ習慣づくりや読書意欲を高めることを目的とする。																																																																																														
事業の 実施状況	事業費	251千円																																																																																													
	<p>令和元年7月から、子どもたちの読書活動推進の取組の一つとして児童生徒が読書に親しむ習慣づくりや、読書をする意欲を高めることを目的として自分で読んだ本を記録する「子ども読書通帳」事業を実施している。表彰者は毎月、市内8図書館に学校名、学年、氏名等を掲示し、讃えている。</p> <p>◆対象：市内小・中学校及び支援学校小学部・中学部の児童生徒 (R元年度 小学生 3,417人,中学生 1,872人 R2年度 小学生 3,308人,中学生 1,846人)</p> <table border="1"> <tr> <td>読書通帳表彰者数 (単位:人)</td> <td>50冊</td> <td>100冊</td> <td>200冊</td> <td>300冊</td> <td>400冊</td> <td>500冊</td> </tr> <tr> <td>R元7～2月</td> <td>371</td> <td>162</td> <td>46</td> <td>21</td> <td>11</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>R2年度</td> <td>258</td> <td>158</td> <td>75</td> <td>33</td> <td>20</td> <td>12</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>R2年度表彰対象者内訳 (単位:人)</td> <td>50冊</td> <td>100冊</td> <td>200冊</td> <td>300冊</td> <td>400冊</td> <td>500冊</td> </tr> <tr> <td>小1</td> <td>117</td> <td>60</td> <td>19</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>小2</td> <td>50</td> <td>36</td> <td>20</td> <td>11</td> <td>4</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>小3</td> <td>23</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>小4</td> <td>13</td> <td>18</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>小5</td> <td>21</td> <td>12</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小6</td> <td>30</td> <td>11</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>中3</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※表彰者数 R元年度 教育長賞：4人 R2年度 市長賞：2人 教育長賞：12人</p> </div>					読書通帳表彰者数 (単位:人)	50冊	100冊	200冊	300冊	400冊	500冊	R元7～2月	371	162	46	21	11	4	R2年度	258	158	75	33	20	12	R2年度表彰対象者内訳 (単位:人)	50冊	100冊	200冊	300冊	400冊	500冊	小1	117	60	19	8	5	1	小2	50	36	20	11	4	8	小3	23	18	19	9	9	1	小4	13	18	8	4	2	2	小5	21	12	3	0	0	0	小6	30	11	5	0	0	0	中1	3	2	1	0	0	0	中2	0	1	0	0	0	0	中3	1	0	0	1	0
読書通帳表彰者数 (単位:人)	50冊	100冊	200冊	300冊	400冊	500冊																																																																																									
R元7～2月	371	162	46	21	11	4																																																																																									
R2年度	258	158	75	33	20	12																																																																																									
R2年度表彰対象者内訳 (単位:人)	50冊	100冊	200冊	300冊	400冊	500冊																																																																																									
小1	117	60	19	8	5	1																																																																																									
小2	50	36	20	11	4	8																																																																																									
小3	23	18	19	9	9	1																																																																																									
小4	13	18	8	4	2	2																																																																																									
小5	21	12	3	0	0	0																																																																																									
小6	30	11	5	0	0	0																																																																																									
中1	3	2	1	0	0	0																																																																																									
中2	0	1	0	0	0	0																																																																																									
中3	1	0	0	1	0	0																																																																																									
自己評価	<p><input type="checkbox"/> 順調に達成した <span style="margin-left: 200px;"><input checked="" type="checkbox"/> おおむね達成した</span>  <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった <span style="margin-left: 200px;"><input type="checkbox"/> 達成できなかった</span></p> <p>令和2年3月から5月にかけて、新型コロナウイルス感染拡大防止のための、小中学校の休校や市内図書館の休館などにより、本を借りることがままならない時期もあり、表彰者数は令和元年度に比べ減少している。 読書通帳事業は学校を通じて実施し、児童生徒に広く浸透してきており、今後も、児童生徒の読書に親しむ習慣づくりのため、継続して事業に取り組んでいく必要があると考えている。</p>																																																																																														
課題等	読書通帳の表彰者は学年が上がるにつれて、少なくなってしまう傾向がある。小中学生までの読書習慣の形成は高校生以降の読書への関心にもつながっていることから、発達段階に応じた図書紹介を行うなど、学校と連携した事業の取組を継続し、併せて図書館利用促進にもつなげていきたいと思う。																																																																																														
外部評価	<p>○データからは、市内の児童生徒に浸透してきたことが見て取れる。読書通帳は、子どもたちの読書量増加や読書意欲向上などにとっても有効なので、是非継続していただきたい事業である。 本当に欲を言えば・・・であるが、今後、通帳型の冊子を図書館の専用端末に差し込めば、読んだ本や貸出日などが印字されるシステムが構築できれば万全だろう。市当局に予算化を望みたい。</p> <p>◇この事業は、小学生にとって読書に親しむきっかけづくりにもなり、特に低学年には効果が大きいと感じる。読書通帳の冊数の表彰はさておき、実は自分が読んだ本がこの読書通帳に記録されることの意義が大きい。このことを何らかの形で表すことができないだろうか。自分の読書記録として、一生使えるのも魅力であると思うが、どうだろうか。 今後、活用の更なる工夫をお願いしたい。</p>																																																																																														

## 事務事業の点検・評価表

	番号	15	分野	生涯学習	担当課	総合市民会館
<b>事業名</b>	クリスマスの夕べ					
<b>事業の目的</b>	「音楽のまち大仙」として、市民に本格的なオペラを鑑賞する機会を提供し、また、市民参加によるピアノ演奏、合唱等を開催し、音楽に直接触れ合う機会を提供する。					
<b>事業の実施状況</b>	事業費		1,559千円			
<b>自己評価</b>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <input checked="" type="checkbox"/> 順調に達成した  <input type="checkbox"/> 達成したが課題があった                 </div> <div style="width: 45%;"> <input type="checkbox"/> おおむね達成した  <input type="checkbox"/> 達成できなかった                 </div> </div> <p>・令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、出演者は思うように練習ができない状況であった。</p> <p>・第1部は、困難な状況の下、会の代表の築地芳子先生及び出演者が強い思いを持ち、舞台芸術の極みであるオペラ「アマルと夜の訪問者」を上演した。</p> <p>・第2部は、中学生によるピアノ独奏、地元の合唱コーラス団体「コール・ノーヴァ」による女声合唱、公募による一般の方を含めたクリスマスキャロルを組み入れた内容であった。</p> <p>・中でも「アマルと夜の訪問者」は、一昨年同様、荘厳な聖夜をイメージとした本格的なオペラであり、観客を魅了した。</p> <p>・上演に当たり多くのボランティアの協力があり、出演者及び来場者の一体感のあるオペラとなり、広く市民が関わる「クリスマスの夕べ」となった。</p>					
<b>課題等</b>	<p>・令和2年度は、入場者数を収容人数の50%とし、県のガイドラインに沿って感染症対策を実施した。</p> <p>・次回開催に当たっては、コロナの感染状況を鑑みながら、引き続き感染症対策を万全にすることが課題である。</p>					
<b>外部評価 有識者の意見・評価</b>	<p>○「音楽のまち」を強く打ち出すためには、市民参加型の本事業は、継続が必要な事業といえる。</p> <p>コロナの収束がなかなか見通せないが、工夫とアイデアで幅広い世代が参加するイベントとして今後更に充実させていただきたい。</p> <p>◇会場の提供や事業費など、実施団体にとってはありがたい支援である。コロナ禍の中で、少ない練習の中、本格的なオペラ舞台を行うことは大変だったと思う。出演者の多くが大仙市民であったことから実施できたものであると思う。入場制限もあったが、このような活動を継続できたことの意味が大きいと感じるし、来場した市民の方々も元気づけられたのではないだろうか。</p> <p>この事業のみならず、市民が主体の優れた芸術活動には、是非とも今後とも支援・協力をお願いしたい。</p>					

## 学識経験者の総評

### ■ 小笠原 重 夫 （秋田県社会教育アドバイザー）

昨年度は、コロナ禍により中止(延期・縮小)を余儀なくされた事業・イベントが多かったのではないだろうか。そんな中、市教委各課・各機関の報告からは、感染防止を大前提に、その中で何ができるか創意工夫しながら、必死に事業実施に努めてきたことが、十分に見て取れた。各課・各機関の御努力に、まずは敬意を表したい。新型コロナの影響を大きく受ける中、市民サービスの充実のために真摯に行動する姿には学ぶべき点が多く、収束の見通しが立たない中でも前向きな姿勢を持ち続けることの大切さを、あらためて教えていただいた。

中でも、生涯学習・社会教育推進の拠点である公民館は、予算削減に追い打ちをかけるコロナ禍で、必死の思いで講座等を実施してきたであろうことは、想像に難くない。ただ、報告書を見させていただくと、公民館で行われている講座は、どちらかというと歴史・文化や趣味・教養の講座に傾斜しすぎているのではないかという感は、率直に言ってあった。今では、公民館等の社会教育施設が行う講座は、どちらかというと趣味・教養的なものよりは、時代の変化とともに「地域社会の維持」や「地域課題の解決」を意図とするものがトレンドになりつつある。

その意味では、大綱交流館が行った「2020 カッコイイ親父教室 IN オータム ～親子で防災キャンプ～」は、目を引いた。かつて西仙北地域は水害の常襲地帯であったが、地域課題である水害防災に焦点を当て、なおかつ父親の子育て参画もねらったこの新規事業は、久々のヒット事業といえる。キャンプ協会等の地元の人的資源も生かしきっていることにも好感がもてた。

この他、報告の中で印象に残った事業が2つある。1つは、「奨学金返還助成事業」である。事務事業ごとの点検・評価書にも記述したが、一昨年外部評価委員会で返還免除となる給付型の奨学金制度が話題に上った。そのことを受けたかどうかは定かではないが、市教委では早速奨学金の返還を助成し、なおかつ若者の県外流出を防ぎ地元定着もねらう本事業を新規に立ち上げた。外部評価委員会を経て事業化されたことについては、いわゆる「評価の有効性」を確認することができ、とてもうれしく、頼もしく感じた。給付事業とセットになったこの事業は、今後更に拡充していくことが望まれる。

もう1つは、「学校・家庭・地域連携総合推進事業」である。仕事柄、大仙市のこの事業の動向には日頃からとても注目している。事務事業ごとの意見・評価書にも記述したが、大仙市は今年度から、「地域学校協働本部」の機能を、各地区公民館が受



け持つ大仙市独自のシステムをスタートさせている。このことは、とても理にかなっていると感じている。なぜなら、公民館と「地域学校協働活動」、どちらもねらうところは、よりよい「地域づくり」にあるからだ。公民館には、体験や実践を重視する特色を生かしながら、地域づくりを推進する運動体として、‘生き残りをかけて’ぜひこのシステムを機能させてほしいと願っている。

地域学校協働活動の一層の充実が期待される中、本稿で1つ提案をさせていただきたい。それは、「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」の導入についてである。県内には、既に域内の全小・中学校にコミュニティ・スクールを導入、あるいは導入に向けて具体的な取組を進めている市町村が多くある。その裏には、少子化により学校の統廃合が急速に進む中、地域住民の心の拠り所や人と人とのつながりが失われることに対する強い危機感があるのだと思う。少子高齢化や人口減少に歯止めがかからない中、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することは、人と人とのつながりを生み出し、学校と地域の双方に元気や活力を与える大きな可能性を秘めているように思う。

コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を置いた学校のこと、差しあたり運営協議会の委員選定が肝になるが、幸いにも大仙市は、これまで「大仙教育メソッド」を実施する過程において、地域ごとに園・学校と各支所・公民館の代表からなる「〇〇地域連絡協議会」といった組織を作ってきた。これに従来の「学校評議員」を組み合わせれば、比較的容易に運営協議会は組織できるのでないだろうか。既存の組織を活用するという発想に立てば、学校現場の負担感はさほど多くはないと思う。

また、本市においてコミュニティ・スクールは学校で、地域学校協働本部は公民館でと、うまく棲み分けする体制ができあがり、これがうまく回るようになれば、将来的には学校の多忙化の軽減にもつながるはずだ。

さらに、今年度から中学校でも新学習指導要領が全面実施となり、その根本理念である「社会に開かれた教育課程の実現」が求められることとなった。学校現場においては、その実現の過程において、コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の体制・機能をうまく活用する・・・という発想があってもよいのではないかと感じている。

大仙市教委におかれては、近い将来コミュニティ・スクールを導入し、本市においてコミュニティ・スクールと地域学校協働活動が一体的に推進されるよう、ぜひ前向きな検討を進めていただきたいと願っている。

おわりに、コロナ禍においては、ワクチン接種をはじめとする市民サービスの重要性をあらためて認識させられることとなった。大仙市教委の各課・各機関には、今後も斬新な発想と活力で、更なる市民サービスの充実に努めていただきたい。

■ 沢屋 隆世 (秋田大学教育文化学部非常勤講師)

ただでさえ、人口減少や少子高齢化が進み、地域の絆が薄れてきている中、さらにコロナウイルスの感染拡大により人が集うことが制限される中、様々な工夫をしながら、地域の課題等に主体的に関わり自らの力で社会を創り出す人材の育成に向けて、教育委員会は一丸となって取り組んできていると感じる。

事業評価項目としてはあげられていないが、教育委員会全体で推し進めている大仙教育メソッドは、「地域の活性化に寄与できる子どもの育成」を掲げ、中学校区ごとに小・中連携と地域連携を軸に進められている取組であり、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」へとつながっている。

そのツールとして、市では公民館を軸とした地域学校協働活動の推進体制を整備・充実させてきていることはありがたい。また、小・中学校では新学習指導要領が完全実施となり、「社会に開かれた教育課程の実現」を図ることとなっているが、大仙教育メソッドはそれを踏まえた優れた取組であるといえる。加えて今後は、学校運営に地域住民が協力する学校運営協議会制度を導入することで、一層の充実を図っていただくことを望みたい。

地域の活性化には、人材の育成が重要である。大仙市全体で小中学校との地域の協働活動を充実させ、若い世代が地域活動に参画する機会を公民館などの社会教育機関が創出していくことが次世代を育成することにつながるだろう。今回、事業評価を行った公民館の事業には、地域課題を意識しながら、親世代や児童生徒を巻き込んで行う事業もあり、他の参考になる実践だと思う。

今年度から、教育委員会は機構改革により、教育指導部と生涯学習部の2つの部がなくなり、事務局として一体となった。そのメリットを生かして、教育行政、学校や公民館、図書館、市民会館等の機関、団体等が連携して、明日の大仙を推進する担い手の育成に、一層力を注いでいただきたい。